

2020年9月

日本教材学会 会員各位

日本教材学会 事務局、第32回研究発表大会実行委員会

日本教材学会第32回研究発表大会ご案内(第2報)

日本教材学会第32回研究発表大会につきましては、すでに5月に第1報として会員の皆様にお知らせいたしました。第32回研究発表大会の概要ができましたので、お知らせいたします。

今年度の第32回研究発表大会は、新型コロナウイルス感染症拡散に伴い、10月17日(土)・18日(日)に「愛知みずほ短期大学」に参集し、第32回研究発表大会の開催が不可能となりました。そのようなことより、研究発表大会は、「紙上研究発表大会」として開催することになりました。

日本教材学会第32回研究発表大会「紙上研究発表大会」は、主催：日本教材学会、共催：愛知みずほ短期大学、後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会で開催いたします。参加費は、徴収いたしません。

今大会の発表は、次の通りです。

- ・口頭発表：31件
- ・ポスター発表：5件
- ・研究プロジェクト(中間発表)：4件
- ・シンポジウム「あらためて教材とは!」：提言4件 です。

なお、「研究プロジェクト」については、今年度6件のプロジェクトが認められましたが、うち2件のプロジェクトは、教育実践が伴う内容であったため、新型コロナウイルス拡散により、実践対象の小・中学校が休校となったことに伴い、今研究発表大会での中間発表を見送ることとなりました。

・シンポジウム 「あらためて教材とは!」

提言(提言者各自の提言タイトルは、「日本教材学会第32回研究発表大会」研究発表要旨集に載ります。)

- 「教育学の立場から」.....朝倉 徹
- 「教育学、教育実践の立場から」.....細川 太輔
- 「教育学、社会科教育学の立場から」.....小松 伸之
- 「教材作成・編集の立場から」.....河野 晋三

・研究プロジェクト(中間発表)

1. 「教材の理論的研究：歴史のおよび哲学的視点から各教科(理科、社会科、算数・数学科等)の教材および教育法を捉え直す」.....プロジェクト代表 前田 善仁
2. 「より安全な成分を使った透明骨格標本作製方法の確立とプロトコルの作成」
.....プロジェクト代表 西川 洋史
3. 「『人権の世紀』の実現—SDGsを踏まえた『人権カレンダー』の作成とその活用」
.....プロジェクト代表 神山 直子
4. 「特別活動と総合的な学習の時間においてエージェンシーを育成する教材の開発」
.....プロジェクト代表 下島 泰子

・自由研究発表【口頭発表】

第1会場 カリキュラム、ESD・SDGs、環境教育

- ① 青木 一起 資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメント
- ② 奥田 健太郎 カリキュラム・マネジメントの評価・改善に関する研究
—上越市立大手町小学校の実践に焦点をあてて—
- ③ 後藤 由美 防災の視点を取り入れたESD実践から考える乳幼児防災教育の構築
- ④ 宮川 秀俊(共同研究 荘大右・汪洋・牛弄)
「多文化共生」に向けたESD・SDGsを視点とする教育課程と教材の開発
- ⑤ 根本 徹(共同研究 田中浩之) 学校休業期間における子どもの環境学習の可能性とその限界

第2会場 生活、総合的な学習、教材論、理科

- ① 伊藤 裕康 「街づくり学習」の動向と課題 ―総合的な学習の時間を中心にして―
- ② 沼澤 清一 サクラ（ソメイヨシノ）の教材化 ― 開花後のサクラの生長の様子から ―
- ③ 大山 瑞希 夏目漱石の教育観と教材・授業論
- ④ 鈴木 宏昭 理科における観察や実験の安全指導に関する教材の特質
- ⑤ 郡司 賀透 理科教育におけるプログラミング教材の開発

第3会場 算数・数学

- ① 横山 修 「速さ」の概念に気付き、その概念を深めるための教材開発
―数学ソフトウェア「GeoGebra」を用いて―
- ② 花木 良 教材研究と幼児から大人までを対象とした数学展示物作成
- ③ 栗原 和弘 学校数学における空間図形の対称の教材の問題点と意義
- ④ 渡会 陽平 場合の数における乗法の複比例による意味づけ
- ⑤ 風間喜美江 中高一貫した図形の論証指導をはかる教材開発
- ⑥ 矢田 敦之 児童のアルゴリズム的思考の検討 ―「魔方陣」を通して―

第4会場 社会科、外国語

- ① 澁谷あゆみ 人間理解を深める社会科学習2
- ② 小松 伸之 社会科公民的分野における世界遺産の教材化の可能性
- ③ 内山 隆（共同研究 澤田康介） 持続可能な社会づくりのための授業開発
―小学校5年社会科「釧路の森林を守る人々」―
- ④ 恒川 徹 ユーモア論に基づく社会科教材開発と授業実践
- ⑤ 中村 俊哉 マイクロプラスチックの課題を中心とした環境プログラムの教材開発
- ⑥ 森 直樹 協働学習の授業に用いる授業リフレクションシートの研究
―高校英語科教員の授業リフレクションによる変容について―

第5会場 理科

- ① 岩瀬 正幸 全天映像作成による気象教材の開発
- ③ 松本 隆行（共同研究 吉田翔吾・山田貴之）
中学校理科単元「気象」における高気圧と低気圧のモデル教材の開発
- ③ 清水 敏夫（共同研究 武田晃治） 飛翔制御したテントウムシを用いた理科・農業分野の教材開発
- ④ 西川 洋史 柴犬由来ガン細胞の教材化に向けた基礎研究
- ⑤ 蝦名 元 クリオネの質感を維持した教材標本の作製―サケの食物連鎖、環境教育の教材―

第6会場 音楽、保健・体育

- ① 吉澤 恭子 フランスの中学校音楽教員採用試験に関する一考察
―音楽と芸術の教養課題の傾向と特徴について―
- ② 高島 扶貴 小学校音楽科「音楽づくり」における「記譜」の役割と方法の再考
- ④ 藤田 祐子 明治10年代～20年代の歌唱教材とその唱法の歴史的考察
―トニック・ソルファ法による歌唱教材―
- ④ 鈴木 一成 保健と体育の関連を図る授業実践―コロナ禍での手軽な運動教材の開発と実践―
- ⑤ 鈴木 健一 専門的知識・技能をもつ外部講師による指導効果の検証

・自由研究発表【ポスター発表】

- ① 松田 典子 家庭科における生活設計や家計に関する学びの変遷
- ② 大森 久美 幼児の対話型美術鑑賞プログラムの研究
- ③ 丹羽 裕紀子 保育養成校における初心者への弾き歌い教材
- ④ 中嶋 藍 どのように人は教材を選択するのか
- ⑤ 八田 友和 肖像画の変遷に着目した教材開発研究―小単元「神を志向する天下人」を事例に―

※「紙上研究発表大会」による発表についての質疑について

今大会は、「紙上研究発表大会」となったことにより各発表への質疑については、口頭発表、ポスター発表、

研究プロジェクト、シンポジウム等々について、メールで質問を受け付けて回答する方法となりました。

質疑方法等については、以下のとおりです。なお、10月初旬に日本教材学会ホームページ掲載予定の「日本教材学会第32回研究発表大会」研究発表要旨集にも掲載いたします。

第32回研究発表大会発表質疑について

《質問及び返答について》

1) 【発表への質問】（質問者）

- ① 質問者は、所属、氏名、メールアドレスを記し、専用Webサイトより送信する。
(アドレス後日連絡)
- ② 質問者は、発表題目・発表者を決め、質疑内容を専用Webサイトより送信する。

2) 【質問について】（質問者）

・質問は、以下のとおりとする。

- A. 質問は、1発表に対して1質問とする。
 - ア. 口頭発表：一人最大5発表に対して質問できる。
 - イ. ポスター発表、研究プロジェクト、シンポジウム：一人合わせて4発表に対して質問できる。
- B. 質問期間は、2020年10月17日（土）10時00分～18日（日）～16時00分とする。

3) 【返答について】（研究発表者）

- ① 返答は、発表者から質問者にメールにて直接行う。
- ② 返答期間は、10月23日（金）～25日（日）とする。
(但し、ア、返答は、原則1回とする。
 - イ、返答時間は、各発表者の勤務等の都合もあるので、返答時間は設定しない。
上記期間中に行うものとする。
 - ウ、発表者のやむを得ない事情で、上記期間に返答できない場合は、10月末日までに必ず行うものとする。)